

壊そうとしても壊れないインターネット ～ インターネットを止めようとする人達と動かし続けるための技術～

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
岡田 雅之

(1998年3月 東邦大学 理学部 情報科学科卒)
(2000年3月 東邦大学大学院 理学研究科 情報科学専攻 博士前期課程修了)

インターネットは、スマートフォンやデジタル家電の普及にも伴い、現代の社会生活には不可欠なものとして扱われています。インターネットの普及に伴い、情報の伝達に関する常識は急激に変化することになりました。従来、情報伝達の担い手はテレビや新聞などの報道機関に拠ることが主であったのに対し、インターネット時代では、個から個への発信が容易に可能となり、情報の流通についても過去の常識が通じない社会となりました。このような状況にあっても情報伝達・集約機関としての報道機関の重要性は残りますが、個による情報発信という新たな手段については、現在も人類始まって以来の出来事であり、その社会実験は継続中とも言われています。個による情報発信は、有益な面も害となる面も存在しますが、一つの重要な性質として、何らかの情報の制御が難しいという特性が知られています。

情報に手を加えたい、と考える組織は世界にも多くあります。が、インターネットにおける情報の加工は担い手となる個が分散しており非常に困難です。結果として、インターネットを個別に停止、遮断するような行為が残念ながら発生しています。しかしながら、インターネットはそもそも個々の障害や途中の作為にあっても全体としては動き続けられるように、自律・分散・協調の精神で運用されており、このような個別の遮断の行為は結果として回避されてしまいます。私は、幸運にも2000年前後に東邦大学のネットワーク管理に携わった経験からインターネットの魅力に引き込まれ、その後20年近くインターネットの運営に関する団体に所属してきました。本講演では、これまでのインターネットを止めようとした事例を紹介しながら、インターネットが動き続けるための仕組みを紹介します。



- 2014年3月 トルコ政府によるトルコ国内のインターネット閲覧措置へ対抗するユーザの回避策の周知
https://twitter.com/d_zahide/status/446961277739749376より